

在シドニー総領事通信

第 41 回 シドニー湾での追悼行事：平和の基盤を未来に生かす

令和 3 年（2021 年）6 月 11 日

1942 年 5 月 31 日から 6 月 1 日にかけて、日本の特殊潜航艇がシドニー湾を攻撃したことを知っていますか。この攻撃により、豪側は水兵 21 名、日本側は乗員 6 名の命を失いました。このため、毎年この時期にシドニー湾で追悼行事が開催されています。

昨年は新型コロナウイルス規制が厳しく、クッタバル海軍基地での追悼式典のみ招待を受けて、初めて出席し献花しました。その模様やシドニー湾攻撃とその後の歴史について、去年の総領事通信で報告させていただきました。

本年は規制が緩和されて、再び出席し献花したクッタバル海軍基地での追悼式典は規模が拡大したのみならず、マンリー記念碑での追悼式典にも招待を受けて、初めて出席し献花しました。更に、海軍歴史協会がシドニー湾攻撃歴史クルーズを初めて企画していると知り、それにも参加することができました。

今回の総領事通信では、これらのシドニー湾での追悼行事について皆様に報告するとともに、日豪関係にとっての意義を皆様と一緒に考えたいと思います。



ノースヘッドで半旗を掲げる豪州軍兵士
(2021年5月28日)

●シドニー湾ノースヘッド（北岬）での式典

5月28日（金）の朝、シドニー湾ノースヘッド（北岬）にあるシドニー防衛記念碑前で、79周年記念式典が開催されました。この式典は、1995年の50周年に際して同地にシドニー記念碑が設置されてから、地元の議員・委員会の主催により毎年欠かさず開催されてきたものです。

昨年は新型コロナ規制が厳しく、主催者3名のみで式典を行った由です。本年は、連年より小規模ながらも、地元のマンリー出身のグリフィン NSW 州下院議員／環境・退役軍人担当政務官の司会進行のもと、NSW 州下院議長や周辺地域の議員、市長・市議会、海空軍基地、日米の総領事館、退役軍人団体や中高校の代表も招待する形で行われました。

当地オーストラリア紙のポール・ケリー上席編集委員（Editor-at-large）による基調講演の後、出席者による献花が行われ、私も日本政府を代表して献花しました。



司会のグリフィン NSW 州下院議員／環境・退役軍人担当政務官
(2021 年 5 月 28 日)

グリフィン NSW 州下院議員が式典準備のみならず当日の司会も自ら担い、地元の幅広い関係者も参列しているのを見て、日本によるシドニー攻撃の歴史が、現在も当地の人たちにとって大きな意味を持っていることを感じました。

そして、地元の中高校生代表が基調講演に対して答礼の挨拶を行い、更に各校代表が参列・献花しているのを見て、この歴史が次の世代に語り継がれていくことがわかりました。

会場で参列者の一人から、「日本政府の代表がこの式典に招待されるようになったのは、私が提案して、それが皆の賛同を得たからだ。」との話を聞きました。このような式典に日本政府の代表が参列しているのも、これまでの日豪の相互理解と交流・協力の積み重ねによるものだと感じました。



豪州海軍歴史協会主催の日本特殊潜航艇シドニー攻撃歴史クルーズ
(2021年5月31日)

●日本特殊潜航艇シドニー攻撃歴史クルーズ

翌週の5月31日（月）には、豪州海軍歴史協会の主催により、日本特殊潜航艇シドニー攻撃の歴史をたどるクルーズが実施され、私も参加しました。今回のクルーズは、来年の80周年を前に初めて企画されたとのこと。当日は晴天に恵まれ、出発地点のロックスでは折しも日本彫刻展が開催されていました。

新型コロナ規制の関係で、参加者数は最大乗船人数の約半分の96名に制限され、すぐに満席となった由です。参加者の年齢層は幅広く、このシドニー攻撃の歴史に様々な人たちが関心を持っていると感じました。日本人では、キャンベラの豪州国立大学（ANU）で日豪間の戦争と和解の歴史について幅広く研究を行ってきた田村恵子氏や、朝日新聞の小暮哲夫支局長が参加していました。



マイケル豪州海軍歴史協会会長による挨拶
(2021年5月31日)

クルーズでは、豪州海軍歴史協会のマイケル会長による挨拶の後、日本特殊潜航艇シドニー攻撃について、これまで各地で30回以上も講演してきたフェラン研究員が、シドニー湾内の重要地点で解説を行いました。

昨年この歴史を調べた際に学んだ内容について、今回現場で追体験ができたのは、本当に貴重な経験でした。海上から風景を見ながら、当時の歴史に思いを馳せました。また、乗船していた参加者からは、日本や特殊潜航艇の乗員について否定的な見方を耳にすることはなく、日豪の和解と相互理解の進展を感じました。

豪州海軍歴史協会関係者からは、歴史クルーズを運航するのみならず、中長期的には市内にシドニー攻撃を追体験できるような展示施設を作りたい、との構想を伺いました。



クッタバル海軍基地の記念碑への献花
(左がハモンド豪州海軍艦隊司令官、右が小官)
(2021 年 6 月 1 日)

●クッタバル海軍基地での追悼式典

そして、6月1日（火）の朝には、クッタバル海軍基地での追悼式典が開催されました。司会を務めたシャンド基地司令は冒頭挨拶で、日本の特殊潜航艇によるシドニー攻撃の概要を説明するとともに、犠牲となった日豪双方の兵士は、現在の私たちの友情と協力と相互理解の確固たる基盤を築いたと述べました。更に、私たちの共通の過去こそが未来の平和と繁栄の基盤をつくること、この式典は、79 年前に命を捧げた先人たちの勇敢な努力により私たちが平和と自由を享受していることに感謝する場であると強調しました。

この式典には豪州の学校とシドニー日本人国際学校の生徒も参加し、豪側水兵 21 名と日本側乗員 6 名の氏名をそれぞれ読み上げました。引き続き、私はハモンド豪州海軍艦隊司令官とともに、豪側水兵 21 名の氏名が刻まれた記念碑に献花を行いました。最後に日豪両国の国歌を斉唱して式典を終了しました。



クッタバル海軍基地史料館の特殊潜航艇への献花
(左がハモンド豪州海軍艦隊司令官、右が小官)

式典後、基地内の史料館 (Heritage Centre) でレセプションが開催されました。同資料館には、特殊潜航艇の一部が保存され、日本側乗員 6 名の氏名が刻まれた銘板が付されています。私はハモンド司令官とともに、この特殊潜航艇にも献花を行いました。

現在、クッタバル海軍基地では大規模な改修工事が行われており、史料館は今後 1 年以上にわたり、観光客には公開されない予定とのことです。この総領事通信を通じて、このような形で日本の特殊潜航艇が保存されていることを皆様にお伝えしたいと思います。



追悼式典に参列したシドニー日本人国際学校生徒
(2021 年 6 月 1 日)

●平和の基盤を未来に生かす

今回、日本の特殊潜航艇によるシドニー攻撃の追悼式典に改めて参加して、79 年前のできごとが重要な歴史として現在も多くの人たちに語り継がれていることを改めて実感しました。

特に、マンリーやクッタバルの式典で、次世代の子供たちに対して、先人の努力によって今の平和と繁栄が可能になったことを伝え、感謝の気持ちを持つことで、更に将来の平和と繁栄につなげていく取組が行われていることは、大変有意義なことと感じました。

来年は、ダーウィン空爆、シドニー攻撃から 80 年になります。日豪両国とも、歴史の中に生きています。歴史を学び、それを基盤に日豪と世界の平和と繁栄を構築していくために、このシドニーの地で一步一步行動していきたいと思えます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

シドニー防衛記念碑（英語）

<https://www.warmemorialsregister.nsw.gov.au/memorials/defence-sydney-monument>
<https://monumentaustralia.org.au/themes/conflict/ww2/display/22023-defence-of-sydney>

豪州海軍歴史協会・シドニー攻撃歴史クルーズ（英語）

<https://www.navyhistory.org.au/event/harbour-cruise-sydney-under-attack-harbour-cruise/>

シドニー攻撃歴史クルーズに関する朝日新聞ウェブ記事（2021 年 6 月 1 日）

<https://www.asahi.com/articles/ASP506TKDP50UHB101F.html>

クッタバル号記念碑（英語）

<https://www.warmemorialsregister.nsw.gov.au/content/hmas-kuttabul-memorial-garden-island>
<https://monumentaustralia.org.au/themes/conflict/ww2/display/21232-h.m.a.s.-kuttabul>

クッタバル海軍基地史料館（英語）

<https://www.navy.gov.au/ran-heritage-centre>

総領事通信第 17 回「シドニーのクッタバル号と特殊潜航艇－『私たちは忘れません。』（2020 年 6 月 19 日）

https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/document/CGKiya_17newsJ.pdf

（以上）